

1 前提

該当する地域	県下全域(平坦地)
設定した経営規模	イチゴ高設栽培 2 1 a
自家労働	2人
その他	①JA共販。 ②育苗は雨よけ施設内育苗で、出荷期間は11月中旬から6月上旬。 ③鳥取型低コストハウスは補助事業を活用(1/2補助)。

2 作付体系

年次	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目				○	.....	∧	.....	◎	.....	□	□	□	□
2年目		□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

凡例：○親株定植、.....育苗期間、∧鉢受、◎定植、——栽培期間、□収穫

3 施設機械装備

但し R = (1 - 残存割合) (単位：円)

種類	構造能力	面積 台数	取得価額	本作目 負担率	負担価額 (A)	償却額 (B) (A) × R	耐用 年数 (C)	年償却額 (D) (B) ÷ (C)	経過 年数 (E)	期首現在 価額 (F) (A) - (D) × (E)	自己資本 割合 (G)	自己資本 利子 (F) × (G) × 利率
作業場	木・瓦	30 m <sup>2</sup>	1,890,000	100	1,890,000	1,890,000	15	126,000	8	882,000	100	35,280
資材倉庫	軽量鉄骨	50 m <sup>2</sup>	3,150,000	100	3,150,000	3,150,000	15	210,000	8	1,470,000	100	58,800
鳥取型低コストハウス	6m×50m	7 棟	6,142,500	100	6,142,500	6,142,500	10	614,250	5	3,071,250	20	24,570
高設ベンチ	4畝×45m	7 組	4,363,380	100	4,363,380	4,363,380	10	436,338	5	2,181,690	20	17,454
育苗ハウス (低コストハウス)	6m×40m	2 棟	1,404,000	100	1,404,000	1,404,000	10	140,400	5	702,000	20	5,616
育苗ベンチ	2bed×35m	2 組	771,120	100	771,120	771,120	10	77,112	5	385,560	100	15,422
動力噴霧器		1 式	266,700	100	266,700	266,700	7	38,100	4	114,300	100	4,572
炭酸ガス発生機 (ネポンCG-254S1G)		2 式	804,000	100	804,000	804,000	7	114,857	4	344,572	100	13,783
かん水設備 (ポンプ等)		1 式	342,000	100	342,000	342,000	7	48,857	4	146,572	100	5,863
高設ベンチ耕耘機 (みのるMFA-6A)	24.5cc	1 式	158,760	100	158,760	158,760	7	22,680	4	68,040	100	2,722
軽トラック4WD 5MT	660cc	1 台	1,050,000	100	1,050,000	1,050,000	4	262,500	2	525,000	100	21,000
合計			20,342,460		20,342,460	20,342,460		2,091,094		9,890,984		205,081

4 技術体系 (10 a 当たり)

作物名	品 種	栽培様式・作型	10 a 当たり収量	ほ 場 条 件	作付面積
いちご	章姫	高設、培地栽培	4,200 k g	(平坦温暖地)	2,100㎡

項目 作業名	耕 種 基 準			作 業 基 準		10a 当たり作業時間			燃 料 消費量 (ℓ/10 a)	
	作業期間 (月/旬～月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	機械利	組	延労働		
						用時間	人員	時 間		
親株養生 親株定植準備	11/上～3/中 10/下～11/上	高設育苗棚 プランター 育苗用土	175個 2,450L	人力	○親株床の準備 ア 育苗用土は購入する。 イ プランターに用土を詰め配置する。	1.0	1	2.0	ガソリン3.0	
親株定植	11/上	ウイルスフリー(VF) 親苗	340株	人力	○親株定植と管理 ア プランターに親株を定植する。 (1、2本植え) イ VF苗から出たランナーをプランターに挿し、1プランター3本程度にする。		2	6.0		
親株管理 (かん水) (追肥) (病虫害防除) (ランナー整理)	11/上～6/中	点滴かん水チューブ IBS 1号 アトコール顆粒水和剤 ベルコート水和剤	100m 3kg 20g 20g	かん水装置 動力噴霧器 人力	ウ 点滴灌水チューブを設置する。 エ 適宜、かん水を行う。 オ 追肥を行う。 カ 病虫害防除を行う。 キ 古葉、病葉を除去し、5月中はランナーを整理する。		1 1 1 1	6.0 18.0 3.0 14.0		
親株後始末 育苗準備 (土入れ)	8/下 5/中～9/上	9cmポリポット 育苗用土	9,000個 2,700L	人力	○育苗準備 ア ポットに土入れをする。		1 2	4.0 38.0		
育苗管理  (かん水)	6/中～9/上	かん水チューブ 農ポリ	100m 120m	かん水装置	○育苗管理 ア 高設棚に育苗トレイを置く。 イ 育苗トレイに農ポリを敷き、小さな穴を開けておく。 ウ 育苗トレイにポットを配置する。 エ かん水チューブを配置し、適宜かん水する。 オ ランナーをポットに固定し発根させる。 カ 8月中旬以降ランナーを切り離す。 キ 古葉かきを行う。		1 2 2	186.0		
(病虫害防除)	6/中～9/上	アトコール顆粒水和剤 ベルコート水和剤 アミスター2070アブル アフターム乳剤 チェス水和剤	160g 30g 150ml 100ml 40g	動力噴霧機	カ 病虫害防除を徹底し、本ばに病虫害を持ち込まないように努める。	12.0	1	18.0		ガソリン12.0
本ば準備 (培土準備) (太陽熱土壌消毒) (ビニール除去) (元肥施用) (耕耘)	7/下～9/上	クロピク錠剤 ポリフィルム 苦土石灰 ロング180 バイオノ有機S ピッカリン	2230錠 40kg 40kg 80kg 40kg	高設ベッド 6m間口4畝	○本ば準備 ア ポリで土壌を30日間以上被覆する。 イ 土壌消毒終了後ポリを除去する ウ 元肥施用する。 エ 混和する。		2 2 1 1	12.0 8.0 4.0 20.0		
定植  (かん水)	9/上～中	ミネパワー S アルギット	20kg 20kg	人力	○定植 ア 株間20～18cmとし10 a 当たり7,800～8,700株植え付ける。		3	48.0		

技術体系

項目 作業名	耕 種 基 準			作 業 基 準					
	作業期間 (月/旬~月/旬)	使用資材名	使用量	作業機名	作業精度及び方法	10a当たり作業時間			燃 料 消費量 (ℓ/10a)
						機械利 用時間	組 人員	延労働 時 間	
株管理 (かん水)	9/中~5/下	点滴かん水チューブ	664m	かん水装置	○かん水 ア 活着まではかん水に努める。 イ マルチ被覆後は生育状況、土壤水分に応じてかん水する。		1	28.0	
(摘葉)	10/上~5/上			人力	○摘葉 ア 随時、古葉、病葉、ランナーの除去を行う。		3	125.0	
(摘果)	10/中~4/中			人力	○摘果 1果房あたり6果程度に摘花し大果収穫に努める。		3	136.0	
ハウス管理 (マルチ被覆) (ビニール被覆)	10/上~5/下 10/上~11/下	黒ポリマルチ 内張農ポリ	664m	人力	○マルチ、ビニール被覆 ア 出蕾までにマルチを張る。 イ 外張り被覆は年中張り。 ウ 内張カーテンは、11月下旬頃から開閉を行う。 エ 定植後から降温に寒冷紗をする。		3	20.0	
(ミツバチ搬入) (温度管理)	9/中~10/中 10/中 10/中~5/上	ミツバチ	2群		○ミツバチ搬入 ○温度管理 ア 昼間23~25℃、夜間5℃以上に保つ(炭酸ガス発生機の設定)。		1 1	166.0	
(追肥) (CO2施用)	1/上~ 12/上~3/中 夜明け頃	アミノキッポ LPガス	20kg	かん水装置 発生装置	○追肥 ア 液肥を液肥混入器でかん注する。 ○CO2施用 ア 最高1,500ppmまで上げ1,000ppm前後に管理する。施用時間は夜明け前後2時間。温度管理と同時に正常作動を確認する。		1	36.0	LPガス400m3 電気365.9kwh
病虫害防除 (病虫害防除)	9/下~4/下	アミスター20フロアブル ベルコート水和剤 ロブラール水和剤 カンタストライフロアブル トリフミン水和剤 チェス顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 ニッソラン水和剤 マイトコーネフロアブル コロマイト水和剤 アフーム乳剤 ノーモルト乳剤 ニーズ(展着剤) スパイデックス スパイカルEX	400ml 75g 200g 400ml 75g 100g 100g 200g 200ml 300g 150ml 100ml 2,700ml 300ml 250ml	人力 動力噴霧機	○病虫害防除 ア ハダニ、アブラムシ 生物農薬で防除する。 イ ヨトウムシ 殺虫剤を散布 ウ 灰色かび病 ハウス内の換気に努め、病葉、病果は取り除く。生物農薬を散布 エ うどんこ病 育苗期の防除を徹底し、本圃に持ち込まない。	30.0	1	38.0	ガソリン 25.0
収穫、調製	11/中~5/下			人力	○収穫、調製 ア 適熟になったものを早朝に収穫。 イ 出荷規格に合わせてパック詰めを行う。		2 2	283.0 403.0	
出 荷	11/中~5/下			軽トラック	○出荷	32.0	1	81.0	ガソリン 70.0
後片付け	6/中~7/上				○後片付け ア 株を抜き取り、マルチをはぐる。	2.0	2	33.0	ガソリン 2.0
合 計								1,774.0	

## 5 経営試算(10a当たり)

区分	科目	金額	説明	
粗収益	主産物価額③	4,523,400	生産量①： 4,200 kg 単価②： 1,077 円/kg	
	主産物価額	0	生産量： 単価：	
	主産物価額	0	生産量： 単価：	
	副産物価額④	0		
	計 (A)	4,523,400		
生産	種 苗 費	62,458		
	肥 料 費	61,736	使用資材等は技術体系のとおり	
	農 薬 費	79,639	〃	
	諸 材 料 費	360,523	〃	
	動力光熱費	339,940		
	農 具 費	55,861	機械負担価額×4%	
	建物等修繕費	147,795	建物・構築物負担価額×1%	
	賃 料 料 金	0		
	共 済 掛 金	8,500		
	雇 用 労 賃	150,729		
	減価償却費⑤	995,759	別表のとおり	
	土地改良費	10,610		
	支払地代⑥	0		
	小計 (B)	2,273,550		
費	販売費一般	出荷資材費	280,234	
	管理費	販 売 諸 費	614,957	
		諸税負担金	13,763	農協賦課金、車検料、固定資産税
		事務研修費	26,893	農業新聞購読料、電話代
		支払利息⑦	45,371	借入資本利率2%
		小計 (C)	981,219	
経 営 費 (D)	3,254,769	注) (D) = (B) + (C)		
家族労働費見積額 ⑧	2,137,980	農 従 労 働 時 間： 1,606.5 生産管理労働時間 38.1 1,300 円/時間		
支払利子・地代算入生産費(E)	5,392,749	主産物単位当たり 1,284 円/kg 注 (E) = (D) + ⑧ - ④		
自己資本	流動資本利子⑨	87,032	注) ⑨ = ((E) - ⑤ - ⑦) / 2 × 0.04	
	固定資本利子	97,658	利率4%	
利子(F)				
自 作 地 地 代 (G)	13,619			
全算入生産費 (H)	5,591,058	生産物単位当たり 1,331 円/kg 注) (H) = (E) + (F) + (G)		
所 得 (I)	1,268,631	時間当たり 771 円 注) (I) = (A) - (D)		
所 得 率 (J)	28	注) (J) = (I) ÷ (A) × 100		
農企業利潤 (K)	-1,067,658	注) (K) = ③ - (H)		
家族労働報酬 (L)	1,070,322	時間当たり 651 円 注) (L) = (I) - (F) - (G)		
農業資本利潤 (M)	-869,349	注) (M) = (I) - ⑧		

